社会貢献フォーラムin大分

地域を繋ぐ防災意識 ～いま、私たちにできること～

危機感を共有しっかり備える

「社会貢献フォーラムin大分」（主催・全日本社会貢献団体機構、大分合同新聞社、全国地方新聞社連合会）が2019年12月8日、大分市のコンパルホールであった。近年、県内でも自然災害が相次いでいる。災害に見舞われた時どんな行動をすればいいのか、また、災害にいかに備えるか。基調講演では気象予報士の天達（あまたつ）武史氏が講演。フォーラムではさまざまな分野のパネリストが防災・減災活動の重要性や災害時の社会貢献活動について意見を出し合った。

第1部 基調講演

気づき、考え、行動を

天気の達人からみた近年の気象災害

気象予報士　天達武史氏

今年起きた大きな災害の一つが台風19号。長野県の千曲川などが氾濫し、大きな被害が出ました。川の増水や氾濫は、大雨が降っている最中には起こらないんですよね。特に大きな川は、枝流から本流にどんどん流れ込んできますので、タイムラグがあります。千曲川でも、雨が止んで9時間後に氾濫していました。晴れてから川が氾濫するため、非常に危険です。

大型の台風は雲が周辺に広がるので、雨が降る時間が長い。台風19号の時は、1時間20ミリくらいの雨が降り続きました。1時間100ミリも降れば「これは危ないな」って思うかもしれませんが、しとしと、ずっと雨が降っていたらどうですか？　多分、逃げないと思う。20ミリや30ミリの雨でも降り続いたら川は氾濫することがあります。避難のタイミングは激しい雨が降った時よりもしとしと降っている時の方が難しいと思っていてください。

よく「温暖化」といいますが、温暖化って気温が上がることだけじゃないんですね。一つは台風が巨大化します。そして、豪雨が増える。気温が上がると水蒸気の量が増えるので、1回で降る雨の量が増えます。1時間に50ミリ以上の冠水するような雨は、約40年で1・4倍ほど増えています。一方で、水不足が深刻化します。豪雨が増えて水不足―矛盾しているように見えますが、実はこれこそが温暖化です。一時的にものすごく寒い冬が来る、逆にものすごく暖かい冬が来る、こうやって「平年並み」が少なくなるのが温暖化です。「激しい現象が増えたな」というところに注目していただきたいと思います。

最後に、これだけは覚えておいてください。**防災の3K、「気づく、考える、行動する」**です。危険にまず「気づく」。そしてどうするか、「考える」まではみんなできます。今日のフォーラムを聞いて、「行動」できる人になってください。

第2部 フォーラム

「被災しない」と思わないで

地域を繋ぐ防災意識 ～いま、私たちにできること～

村松　災害を防ぐために、あるいは災害に見舞われた時に、被害をいかに最小限に食い止めるか。そのために、私たち一人一人はこれからどんなことをしていったらいいのか、一緒に考えて参ります。まず、皆さんの取り組みをご紹介ください。

小林　大分大学減災・復興デザイン教育研究センターでは、災害調査、防災教育、復興デザインと、大きく三つの柱を建てて活動をしています。「大分県災害史」という資料を基に、NHK大分放送局と協力して作った「大分県災害データアーカイブ」もあります。土砂災害、地震、大雨、洪水といった情報を一覧できるようデータを整理しました。一般の方もインターネットを通じて見ることができます。今後、防災教育や地域の防災対策に生かしていきたいです。

大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター長・教授 博士（工学）
小林祐司氏

村松　災害が起きた時、新聞社はどのように行動しているのか。災害に対する考え方も含めて、お願いします。

藤内　災害時におけるメディアの役割は、まず「何が起きているのか」を伝え、そして「命を守るためにすべきことは何なのか」、正しい情報を素早く伝えることだと考えています。災害報道は「調査報道だ」ともいわれます。実際に現場を歩いて人に会い、「何が問題になっているのか」「できることはないか」「今後に生かせる教訓はないか」といったことを伝え続けることが大事だと思っています。

被災後だけでなく、「事前の報道」も重要だと思っていて、「どんな備えをすればいいのか」がイメージとして分かりやすい紙面づくりを心掛けています。

力武　私たちは県下115店舗のパチンコ店でつくる組合です。意義として「本業の健全化」ともう一つ、パチンコをしない方からも「パチンコ店があってよかった」と言われるような社会貢献活動があります。

今年、大分県と「災害発生時における施設使用等に関する協定」を結びました。災害時に立体駐車場や施設を解放し、景品用の食べ物や飲み物を緊急時避難した方に無料で提供するといったことを想定しています。

大分県遊技業協同組合 理事長
力武一郎氏

天達　災害時に取るべき行動を表にしておく「マイタイムライン」作りをぜひやっていただきたいです。例えば、台風が上陸するのは5日前から分かるんですね。3日くらい前には前もって常用している薬をもらいに行く、半日前には警報や土砂災害警戒情報が出たらどういう行動をとるのか決める、5時間くらい前までには「どこに避難するのか」を確認しておくなど、ハザードマップなどを参考に作っていただきたいです。

村松　私たちは何をしたらいいのか、皆さんに伺おうと思います。

天達　災害のことって、深刻に考えれば考えるほど何もしなくなってしまう。温暖化対策にしても、「今日は車を使わないで、一駅だけ歩こう」とか、夏の間は緑のカーテンをしようとか、ちょっとしたことから取り組んでみてください。もう一つ、天気予報は最新の情報を確認するようにしてください。

気象予報士
天達武史氏

小林　自己投影すること。「今まで被災していないから、これからも被災しない」と思わないでほしいんです。必ず被災するとも限らないけれど、それは誰にも分かりません。事前の備えをしっかりやっておくことが重要です。

藤内　SNSで誰でも情報発信ができる時代です。ファクト（真実）もあるけれど、フェイク（偽物）も多い。記者だからこその視点や問題意識を持った取材でしっかりとした内容を担保していく力が報道に求められると思っています。防災・減災で良い取り組みをしている皆さんを紹介することで、後押しするような報道をしていきたいです。

大分合同新聞社 編集局 報道部 編集委員 社会班担当次長
藤内教史氏

力武　「危機感の共有」だと思います。今日も危機感を皆さんと共有できて良かったです。海に近い津久見の店舗では、スタッフ全員がどこに避難したらいいかを確認しています。何か起こったとき、こうすればいいと知ることが安心につながります。皆さんもぜひ避難場所を確認してください。

村松　「社会貢献活動」というと、「堅苦しくて何をしたらいいのか分からない」と感じる方もいらっしゃると思いますが、地域の方が声を掛け合うこと、あいさつし合うこと、そういったことが社会貢献につながっていくのではないでしょうか。人と人とがつながり、地域を守る力が生まれます。本日はありがとうございました。

アナウンサー
村松真貴子氏

企画・制作／大分合同新聞社ビジネスサポート部 企画編集班

AJOSC

全日本社会貢献団体機構は、全国のパチンコ・パチスロホール組合の連合会組織である全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）を母体として2005年12月に設立された任意団体で、学識経験者、文化人、政財界関係者が参加し、平和で住みよい社会づくりに貢献する事業への助成や社会貢献活動の顕彰を主な活動としています。

私たちは、社会に役立ち必要とされる事業や活動をサポート・応援しています。

助成事業

今日の社会に最も必要とされる活動に対する助成事業は、当機構の根幹事業です。毎年、子どもの健全育成や東日本大震災と熊本地震などの災害復興支援で被災者を元気づける活動に対し、助成を行っています。

◆ 2018年度 助成事業（実績の一例）

「熊本地震仮設住宅の『孤立化』『孤独死』防止支援活動」事業
［一般社団法人　ACTくまもと］

「元気スタートアップ！親子で楽しむティーボール教室」事業
［元気スタートアップ！親子で楽しむティーボール教室実行委員会］

「発達障がいを持つ子どもと保護者への育成支援『六甲山の森づくり』」事業
［特定非営利活動法人　アスロン］

顕彰事業

会員の社会貢献活動を顕彰し、今後一層の活動を期待して、年間で最も優れた社会貢献活動に「社会貢献大賞」を授与することとし、平成17年から実施しております。

第12回　社会貢献大賞
「心臓移植手術を要する県内在住の2人の幼児への支援活動」事業
神奈川県遊技場協同組合

第13回　社会貢献大賞
「公益財団法人　京遊連社会福祉基金創立30周年記念」事業
京都府遊技業協同組合

第14回　社会貢献大賞
「新宿アラジン　社会貢献活動」事業
東京都遊技業協同組合
鳳企業株式会社

全日本社会貢献団体機構　TEL.03-5227-1047 http://www.ajosc.org